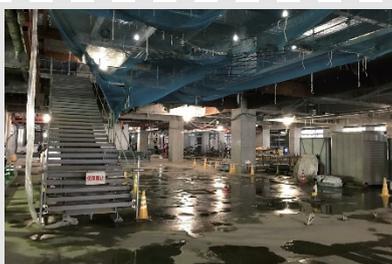


新庁舎建設
現場見学

新庁舎の完成まで1年を切り、段々と地上の躯体も出来上がり新庁舎の全体像が見えてきました。皆さんが建築中の建物の外側を目にする機会は多いと思いますが、「建物の内側ってどうなっているのだろう？」と疑問に思ったことはありませんか？そこで今回は、普段あまり目に触れることのない現場の内側の様子をのぞいてみたいと思います！



1階吹き抜け

1階の東正面出入口から入ったところ。
ここは2階への階段があり、吹き抜けになっています。



フロア全体

フロア全体を見渡した様子。
何もないと遠くまで見渡すことができます。

タワークレーン①

2基のうち東のタワークレーン。
最大作業半径52mで、このとき7.5トンのものを吊ることができます。奥に見える本町仮庁舎から高さがかがえます。



タワークレーン②

2基のうち西のタワークレーン。
こちらは、最大作業半径40m(7ト)は東のクレーンより小さいですが、高さはこちらに軍配が上がります。



地下駐車場出入口(西)

西側にある地下駐車場の出入口。
ここから、公用車が入り出ることになります。



鉄骨の穴

鉄骨に空いた穴、これは天井を通る配線・配管用に、きちんと考えて空けられています。そのため、鉄骨を発注するときには、そこまで考えておく必要があります。

高知県庁を望む

張り巡らせた鉄筋の上からは高知県庁全体を望むことができます。



クリーンスタンド

いわゆる掃除用具。
現場では粉塵など何かと処理するものが発生しますので、掃除用具は必需品です。





高所作業車

天井などの高い位置での作業で活躍する高所作業車。高さを変更でき、さらに移動もできるので、脚立いらずで作業効率も大幅アップ！



チンアナゴもどき

一見、チンアナゴのようにみえる謎の管。これは、電話線やLANケーブルを通すための配管です。コンクリートを打つ前にこの配管をすることでスッキリとした配線ができます。

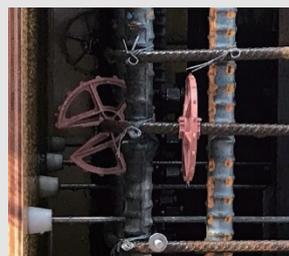
現場に咲いた一輪の花

花のようなオレンジの物体の正体は？これは、「天端（てんば）ポイント」と呼ばれる、スラブコンクリート打設の高さを測るものです。現場にはこんな便利なツールが隠れています！



スペーサー

現場では、見た目そのままドーナツとも呼ばれる、この円形リング。これがあるおかげで、型枠と鉄筋の間隔（かぶり厚）を確保して、型枠を建入れることができる優れモノです。



現場トピックス

建設現場で働く動物たち



建設現場にて…「このネコちょっと借りるよー」一般の人がこれを聞くと、「現場でネコ(=^・^=)を飼っているの？ネコに何を手伝ってもらうの？」と思われるでしょうが、三毛ネコでもシャムネコでもマンチカンでもないネコが現場にもいるんです。今回は、思わず「何それ？」とか「へえー」と思うような、動物の名前が入った現場用語をご紹介します。

ネコ

コンクリートなどの材料の運搬に使う手押し車。猫車とも言います。猫のように狭いところに入ることができることから来ているようです。



犬走り

建物の周囲や軒下に沿ってコンクリートや砂利などで固めて作る細い外構部分。犬が通るような細い幅で作られていたことから来ているようです。



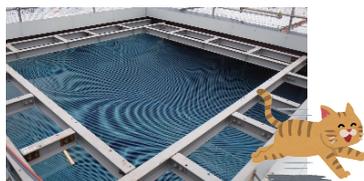
鳩小屋

屋上でハトを買うための小屋…ではなく、小屋は小屋でも屋上に出てくる、排気や換気用の配管等のための小屋のこと。この鳩小屋を作ることによって、防水層が保護されるうえ、建物内に雨水が入らないようにする（雨仕舞）ことができます。



キャットウォーク

高所を好む猫が通るための道のことで、それが転じて点検や作業のために、高い位置に設けられた狭い通路や足場のことをキャットウォークと呼びます。



つるはし

「つるはし」と聞くと「ドルアーガの塔」を思い出す40代も多いと思いますが、「つるはし」も漢字で書くと「鶴嘴」。その形状からツルのくちばしって書くんですね。



猿梯子（さるばしご）

別名「モンキータラップ」。2本の垂直材に横木をかけた通常のはしごのことです。



このほかにも有名どころで言うと、工具の「モンキーレンチ（モンキー＝猿）」、重機の「ブルドーザー（ブル＝雄牛）」、「クレーン（＝鶴）」と、動物園！？と思うくらい現場内にはたくさんの動物が働いています。厳しい現場作業に和みをもたらす、昔の人の知恵なのかもしれませんね。

